

<今回>285回目 2020年11月9日(月)15時~18時 602号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p237、実体不明「緘口令」より

<前回>284回目(20-10-26) 出席者 7名

資料(20-10-26-1)前回のまとめ(清水)

A 報告 10月23日午前10時から「多元の会」の藤田隆一氏のSkypeソフトでビデオ会議6回目。今回は藤田氏は佐渡に旅行に行ったので欠席。百濟禰軍の墓誌は次の3回目で一区切り。墓誌については実際にあったのか、解読用紙が市場に出たので、真偽については不明となっている。

関西の古田史学会報に野田氏の隋書倭国での地理が出た。大阪の難波が到着点という論だが、和田氏から私の意見はないかというので、瀬戸内海を航行しているとは思われない。秦王国から10余か国は国東半島の海岸だろう、3千里は長里ではない。海賦の中の詩的な表現で三國志の3千里であろう。国は小さい。倭王武の衆夷66か国に比較しているなどの意見を言った。

C 読書 p221 第3章 高句麗王碑 から

1) 碑文改削説の波紋 高さ6.34m、4面にびっしり1800余字が彫られている。1字の大きさ約12cm角くらい。この碑の立てられたのは甲寅年(414年)好太王の死からわずか2年目。有名な句「倭以辛卯年来渡海破百殘〇〇羅以為臣民」明治以来の解釈、辛卯年は391年。

2) 1972年5月李進熙(在日朝鮮考古学者)は「高句麗好太王碑文の謎」という論文を公表。「思想」575号)この碑文は悪質な改削を受けた物という、犯人は酒匂大尉と断じた。改削されたという文字を原形と改削文字で18例。石灰塗布作戦5例、他+2例を示した。しかしその個所はイデオロギー的な問題を含んでいなかった。

3) 倭賊、倭寇潰敗、倭不軌侵入帯方界など日本軍に不利な事は全く改削されていない。

4) 証人の目 現地におもむき苦心して調査した人々の証言をまともに受け取ろうとしていない。明治34年の鳥居龍蔵は写真撮影、拓本購入、明治40年から主要な調査は5回、大正、昭和と行われて、拓本に異同があるからこそ、何回も調査に行った。拓本製作者が美しい拓本をとるために石灰で碑面の地肌を整えて取りやすくしていると報告している。

5) 李は今西、黒板、池内らは拓工による後期の部分的改削だけを大きく取り上げて、日本軍国主義者の犯罪行為を2重3重に隠蔽する結果をもたらした。と非難した。

6) 李の研究手法 多くの拓本、ふちどり本また写真類を実証的に比較、異動対照表を掲げ、各拓本の部分写真までも掲載している。大正以来日本の学会による各種拓本の追跡研究は行われていなかった。あっても二次的な方法として重きを置いてこなかった。それを古田は京都大学人文科学研究所、東京国会図書館など何回も行き来して金の研究方法を上回ったと自信を得た。

7) まぼろしの解体謀議 海軍省嘱託の青江秀、歴史学者栗田實、漢学者の中村不能斉の付箋がついていることから解読作業が参謀本部で行われたという。ここに事実誤認がある。以下写真、筆跡分析などしているが略

次回日程 2020-11-23(月) 15時から18時 1503号室

-12-4(金) 15時から18時 603会議室

-12-18(金) 14時から18時 602会議室